

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 1月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人 恭生会		
事業所名	グループホーム 和朗園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護(+介護予防)		
所在地	大阪府高槻市井尻2-37-8		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年4月9日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=27
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成24年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「愛」と「和」の理念のもと、利用者に今まで送られてきた日常を提供することを目標に、共同生活の中で自らの役割を担い、達成感や満足観を得られるよう自信の維持援助に努めている。</p> <p>センター方式を取り入れ、利用者の生活歴や現状の把握に努め、サービス内容をより個別化し、調理・掃除・洗濯などの日常的な家事はもとより、買い物や、外出の機会を確保、また、ご家族・地域の方々の協力のもと花見、夏祭り、餅つきなど季節に応じた催し、日帰り旅行等を行い、ありふれた家庭での日常を提供できるよう取り組んでいる。</p> <p>総合病院が母体である為、緊急時対応についても安心感を得て頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利便性と、田園の中の静けさを併せ持つ立地条件に恵まれた施設である。玄関周りに季節を感じさせる草花を植え、共用部分の飾りつけにも家庭的な雰囲気を出せるように配慮されている。立地条件的に日常的な地域とのつながりを持つことは難しいが、地域の清掃活動への参加や施設全体で実施される行事に近隣の住民が来訪し交流を継続している。施設全体では、納涼祭や餅つきなどイベントへのボランティアの来訪があり、交流を持つようにしている。グループホームの広報誌の配布も行い、地域の理解を促す取り組みを行っている。職員は利用者の日常生活動作別に事故のリスク把握・予測を行い事故予防対策を検討しプランに反映させ事故予防に取り組んでいる。さらに、介護をみえるものにするべく、自分たちが提供したケアについての記録内容の充実に向けて取り組んでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設としての理念があり、文書化し各所に掲示している。ミーティング時など、理念を唱和し、周知を図っている。新入職時にも説明し、浸透に努めている。	施設としての理念を基に事業所として基本方針を立て、掲示している。フロアカンファレンスで理念・基本方針について振り返る機会を持ち、理念・基本方針の実現に向けてどのように取り組んでいくのか検討を行い周知を図っている。家庭的な雰囲気大切に、利用者一人ひとりのライフスタイルに沿ったケアを提供・実践していくことに取り組んでいる。利用者が育ってきた家庭的な雰囲気とはどのようなものか学び環境作りを行なうなど、理念・基本方針実現に向けて具体的に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学習会・清掃活動にも参加、地域の清掃活動、学校行事等へ参加をしている。必要時には、協賛の形でも取り組んでいる。定期的に、広報誌の配布も行っている。	立地条件的に日常的な地域とのつながりを持つ機会を持つことは難しいが、地域の清掃活動への参加や施設全体で実施される行事に近隣の住民が来訪し交流を持つことは継続している。自治会との意見の交流も行っている。施設全体では、納涼祭や餅つきなどイベントへのボランティアの来訪があり、傾聴・エステのボランティアはグループホームに来訪してもらい交流を持つようにしている。グループホームの広報誌の配布も行い、地域の理解を促す取り組みを行っている。小学生の来訪や学校行事へ出向いての交流の機会も持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	受け入れてもらえる雰囲気作りが出来にくい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・住民・行政職員などの構成で、2ヶ月に1度の割合で開催。議事録の掲示もしている。参加者の意見を参考に、日帰り旅行・レクリエーション等の実施に努めている。	地域住民代表者（自治会長・福祉委員）、家族代表者、利用者代表者、市の介護保険課職員の方に出席してもらい、年6回開催している。家族代表者は年度で固定して出席してもらっているが、議事録は掲示し内容を公開している。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に市の介護相談員が来所し、助言・意見交換を行っている。計画作成者は頻回に市の担当を訪れ、情報交換に努めている。</p>	<p>高槻市の介護相談員の来訪が毎月あり介護相談員から市への報告がなされている。介護相談員からの助言や気づきを参考に運営やサービスに反映させている。計画作成担当者は頻りに市の方へ出向いて、事業所の現状を踏まえて情報提供や情報交換を積極的に行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。周辺症状が強く出る方については、専門医との連携で対応する様にしている。また、言葉による拘束についても研修会を通じて自分達の取り組みを見直す機会を作っている。</p>	<p>安全(身体拘束廃止)委員会で研修会を開催し、拘束をしないケアの実践についての理解を深めるように取り組んでいる。「ちょっと待って」も言葉による拘束と捉えて、拘束をしないケアの実践が徹底できるように、研修会を通して周知するように取り組んでいる。教育委員会で年間で必要な研修の計画を策定しており、身体拘束だけでなく、高齢者虐待についても学びの機会を持ち高齢者の尊厳を守ることができるように取り組んでいる。施設全体で実施された研修は、事業所内で伝達研修を実施し、全職員で取り組めるようにしている。身体的な拘束・虐待が行われないことはもとより、利用者の精神的な拘束・虐待が行われないように「利用者とのコミュニケーション」の事業所内研修の機会に重ねて学びの機会を持ち、理解を深め話し合いを通して周知徹底を図るようにしている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会を開催、又研修に参加し、意識の向上に努めている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内研修にて年1回実施しており、権利擁護に関する制度について管理者、職員が学ぶ機会がある。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所者家族には入居前に時間をかけて十分に説明を行っている。家族等も納得してもらっている。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。また、定期的に介護相談員が来所している。運営推進会議・来園時の声かけ等により、意見や苦情などを受け入れられる雰囲気づくりに勤めている。アンケートも実施している。</p>	<p>家族来訪時に職員が意見や要望を聞きとるほか、毎年家族にアンケートを実施し意見や要望を聴取する機会としている。意見箱も設置しており意見箱にご利用者の意見が入っている。出された意見や要望は「要望相談記録」「苦情(相談)記録」の書式に記録として残し、検討・対応の結果、結果の報告に至るまでが記録として残され確認できる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングや連絡ノートを活かし、職員の意見や提案を聞き入れる工夫をしている。また日頃から互いに話す機会を大切にし、思いを知ることに努めている。</p>	<p>フロアカンファレンスで利用者へのケアについて話す中で、職員のサービスや運営に対する意見や要望・気づきを述べる機会となっている。カンファレンスでは、職員一人ひとりが意見や要望を言いやすい雰囲気作りに配慮をしている。出された意見や要望は、フロアカンファレンスで話し合い、検討を行い、運営やサービスに反映させるようにしている。フロアカンファレンス前には、職員から話し合いたい内容や検討しなければならない事項を収集し、職員へ検討課題や内容を事前に配布しカンファレンスが円滑に行えるようにしている。個人面接は必要に応じてその都度実施し、職員からの意見や要望を聴取する機会となっている。法人でキャリアパスのシステムを導入しており、必要に応じての面接を行う他、施設長にいつでも相談や意見や要望を直接言うことができるように配慮されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>充分とは言えないが、より向上に向け努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設全体の教育委員会や内・外部研修の案内を掲示し、自己啓発、資質向上の為に参加を促している。外部研修で学んだ知識の伝達研修もしている。経験・習熟度による個別研修も実施している。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>不十分ではあるが、外部研修の一環として他施設での実習があり、そこで施設の見学や意見交流する機会がある。学んだことを、ケアの実践に活かし、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には必ず本人との面談を行い、計画作成担当者が本人の話を聞く機会を確保して。また、申し込み時には出来るだけ本人・家族で見学に来て頂き説明を受けて納得してもらった方に申し込んでいただくようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人・家族との面談・施設見学を含め、その後も密に連絡を取ると共に、担当ケアマネとも連携をとり、不安なこと、求めていることを受け止めるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所状況や本人の能力に合わせて、他のサービスや施設への案内・提案や趣味嗜好なども勘案しながら対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事の仕方や昔からの習慣、草花の名前・調理等、教えていただくことを主体にしている。外食・ウインドショッピング等、一緒に外の空気に触れていただく機会も多くしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と、面会時や、電話連絡でケアへの取り組みについて、相談し、共に協力して、本人を支えていく関係を築けるように努めている。外出や行事等に家族も参加をしている。</p>		

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所者が馴染みある喫茶店・店などを利用し、良い関係が継続できるようにしている。また、知人の面会を受け入れたり、家族の家に泊まりにいかれたり、家族の協力の下、墓参りや自宅に帰られる方もいる。</p>	<p>知人・友人の来訪時には、気持ちよく面会できるように配慮する他、家族に協力してもらい馴染みの関係が継続できるように支援している。馴染みの店や喫茶店へ出向いて、馴染みの人との関係が継続できるようにしたり、家族の理解と協力で思い出の場所に出かけることができるように支援している。利用開始後にできた馴染みの関係の継続や馴染みの場所への外出も支援を継続している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入所者同士の関係に合わせて、座席の配慮・趣味の共有などで、関わりあえていけるよう努めている。</p>	/	/
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も希望がある場合、継続した相談に乗れるようにしている。</p>	/	/

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自立支援を図る為に入所者の「できること、できないこと」については極力口を出さず、見守ったり職員と一緒に行動するようにしている。部屋環境も、なじみ・思い出を大切に出来るよう、家族にも働き掛けている。</p>	<p>利用開始時にセンター方式の一部の書式を利用して家族に記入を依頼し、利用者の情報の把握を行っている。把握できた情報を基に利用者の立場に立ち思いや意向・希望を考えるようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>家族や関わりのある関係者より情報を得てセンター方式に反映させている。また、入所時には必要に応じて担当ケアマネからサービス利用経過等の資料を本人・家族の了解の上、提供してもらっている。</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々に出来る事や望んでいる事を引き出し、把握する様にしている。日々の何気ない会話や仕草等の観察を通して把握できるように努めている。</p>	/	/

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議は、出来るだけ家族も出席できるように努め、入所者、家族等関係者と意見を出し合い、介護計画を作成している。参加困難な家族には、意見・要望などの聞き取りによることもある。</p>	<p>面談時に把握できた情報でアセスメントを行い暫定のプランを作成している。利用者の状況により3～6カ月で見直しを実施している。見直し前には、居室担当者・計画作成担当者と共にモニタリングを行い、担当者会議を利用者・家族と共に実施し、職員だけでなく利用者・家族の意向や希望を入れた計画の見直しを行っている。支援経過には、職員から情報収集し毎月モニタリングが行われていることが確認できる。チェックシートにケアプランが明示されており、日々のケアや支援をプランを意識しながら提供できるように取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や実施内容について、個別に記録し、一元的にならないよう見直しに活かしている。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の状況に応じ、出来るだけ通院送迎・外出などの支援も行うように努めている。又、併設事業所との協力も仰ぎながら種々の支援に努めている。</p>	/	/
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>出来るだけ地域イベントを含め、交流・支援環境を作れるように努めている。</p>	/	/
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続できるように支援している。又、併設クリニック・系列母体の病院との協力体制は確立できている。</p>	<p>利用開始時に希望のかかりつけ医の確認を行い、希望のかかりつけ医への受診ができるように支援している。併設のクリニックや法人の母体病院への受診はいつでもできるように体制が整えられている。慢性疾患がない方でも定期的にレントゲンや採血で健康管理をしてもらうように受診している。日常的には看護師にいつでも相談できる体制がある。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師に医療活用や日常の健康管理について相談している。</p>	/	/

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の状況について、家族のみならず、入院病診連絡室と連携を図っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム利用が困難などのことを想定して、時々家族とも話し合っている。医療連携体制加算・見取り指針の制定のより、系列施設との体制を確立し、本人・家族の安心感も得られるようにした。	重度化・看取りに対しての指針の作成をしており、利用者の身体状況・病状の段階に応じて家族と共に話し合いを行うようにしている。契約時から具体的に説明を行い、重度化した場合における対応にかかる指針に関する同意を得ている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当年度は未実施		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。利用者も参加している。グループHでの夜間想定訓練も実施。	年2回施設全体での防災避難訓練を実施している。年1回は、グループホームが出火元になり昼夜想定で地域の消防団の方にも出席してもらい実施している。備蓄も施設全体で行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入所者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。又、職員研修・誓約書による体制も敷いている。	施設全体研修の「プライバシー保護」の研修でプライバシー保護、個人情報について学びの機会を持っている。	日常的な話し合いの中でも、日々のケアで言葉かけや会話の話題の中でプライバシーや尊厳に触れることはないか周知徹底を図っていくことが望ましい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	筆談、ジェスチャーを用いる事も取り入れ、本人の希望が聞けるように工夫している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや好みを把握し、それに応じた声かけのタイミングや方法に配慮している。食事や外出の際の組み合わせの際にも、常に配慮している。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>行きつけの美容院に行き易いようにしている。外出の際には、外出用の服装になるように支援している。「祭り」の時は、希望に合わせて浴衣や甚平が着られるように、家族と連絡を取り合っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・配膳・食器洗いも、出来る限り利用者の意見も取り入れ、一緒にして楽しんでいる。調理方法を一元化しない・自家栽培の利用などの工夫もしている。</p>	<p>同施設の管理栄養士の立てた献立で食材の搬入を受け、調理や配膳・後片付けを利用者の希望や身体状況により職員と共に行っている。玄関前の畑で栽培した野菜なども取り入れメニューの工夫をしている他、嗜好調査も行い利用者の意向や希望がメニューに反映させるようにしている。おやつ作りは買い物から利用者と共に実施している。食事は職員も同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら食べている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が作成したメニューを参考に調理している。10時と3時をおやつに時間を決め、1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する等している。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>声かけや促し、また、入所者の状態に合わせ、見守り・一部介助の支援をしている。。協力医療機関: 歯科衛生士のアドバイスも受けるように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>必要な方には、排泄ターンの把握、タイムリーな誘導を行っている。食事や水分の摂取や日中の活動に配慮している。</p>	<p>排泄パターンを把握し利用者個別の排泄パターンに合わせた排泄誘導や声かけを行うようにしている。排泄パターンは排泄チェック表で確認しているが、定期的にパターンに変化はないか確認をし誘導に反映させている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>散歩・ラジオ体操・水分摂取の確保に努めている。1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する等している。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>不十分であるが、入浴剤を使うなど楽しめる工夫はしている。本人の要望により、入浴されない場合、日にちを改めるなど、本人のペースに合わせているなどの、配慮している。</p>	<p>週2回の入浴ができるように支援している。フロアにより入浴曜日が違うため実施日に入浴ができない場合には、他のフロアの入浴実施日に入ることができるように支援している。入浴剤等を使用し入浴が楽しめるように工夫している。現在、見守りと一部介助で入浴できる方がいるが、病状により一時的に一般浴が困難な場合は、施設の特殊浴を使用する場合もある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜には照明を落とし、静かにするようにしている。昼間、自室で休むときには室温や換気に注意している。</p>	/	/
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師・看護師からの説明を理解し、共有している。変更ある場合は家族にも伝えている。</p>	/	/
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>1人1人の希望や能力に応じて、ドライブに行ったり、習字や歌を歌ったり、調理等の家事・畑仕事など分担している。</p>	/	/
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望に応じ、外出機会を得られるように計画。随時、散歩やドライブに行き、畑・ベランダ園芸など個別支援にも心がけている。</p>	<p>利用者の希望により喫茶店や馴染みの店への外出ができるように支援している。毎日おやつや買い物や散歩・ドライブなど出かける機会を多く持つようにしている。現在、一泊旅行に出かけることができるように検討中である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々に応じて、一緒に買い物に行き、支払いをして貰っている。家族とも金銭に関わるトラブルと金銭を使う意味を話し合っている。</p>	/	/

51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎしている。一緒に電話をかけに行っている。年賀状なども出してもらっている。 入所者の中には、携帯電話を持参され、自由にコミュニケーションが出来る環境が出来ている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアでは自然の光がはいるよう窓を開け、閉塞感がなく外の景色が見渡せるよう配慮している。玄関には季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り付けを行っている。台所では食事毎に調理の音や匂いがするなど、入所者が落ち着いて過ごせるよう、家庭的で馴染みのある雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>窓から差し込む自然光や風をカーテンや窓の開閉で調整し、気持ちよく過ごせる環境を整えている。リビングの壁面は職員と利用者の手作りの作品を飾り、テーブルの花が季節感を感じさせている。また、利用者が安全に移動できるように机や椅子・ソファを配置している。リビングの中の台所からは職員の話し声や食器の音などが聞こえ、家庭的な雰囲気でも心地よく過ごせる場所となっている。リビングから少し離れた共用空間に椅子やソファがあり、人の気配を感じながら一人または少人数で過ごせる居場所が確保されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>何ヶ所かに椅子やソファを置いており、各々好みに依って使っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳を利用したり、なじみの家具を持ってきて、飾り物をしていただく等、家族協力もお願いしている。ベットや家具も、本人の希望に応じ、配置している。</p>	<p>利用者の個性が感じられる居室では安心して過せるスペースが確保されている。馴染みのある品や使い慣れた品に囲まれ、生活感が感じられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>水洗いの使い方を書いて貼っている。入浴時の洗剤に「頭」「身体」等表示している。また、整理タンス・洋服タンスに、衣類の分類が分かるように、表示している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない